

## 令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	北区立さくらだこども園
所在地	北区王子5-2-6-103

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

身近な虫との関わり

<テーマの設定理由>

本園は自然に恵まれた広い園庭があり、季節ごとに多様な虫や生き物が見られる環境である。虫を探したり観察・飼育したりするなど、身近な虫に強い興味や関心を示し、自ら関わろうとする幼児も多い。一方で、これまで虫に触れた経験が少なく苦手意識をもつ幼児もあり、興味や関心には個人差がある。また、虫を踏んでしまったり、飼育しているつもりが、死なせてしまったりすることもあった。

そこで、幼児が園生活を通して身近な虫と関わる中で、身近な虫に親しみをもち、その特徴や生態への関心を深め、命を大切さにまで気持ちが向くことを願い本年度のテーマとした。

### 2. 活動スケジュール

- 4月 活動① 園庭での虫探し
- 5月 活動② 学級でのオタマジャクシの飼育
- 9月 活動③ 夏の虫を作って遊ぼう（製作遊び）

### 3. 探究活動の実績

#### 活動① 5歳児4月「園庭での虫探し」

〈活動の内容〉 (・活動のために準備した素材や道具などの環境構成、意識した教師の関わり)

4月、園庭でダンゴムシやアリなどの虫探しを楽しむ姿が見られた。幼児は、教師が用意した小さな飼育ケースに見つけた虫を次々と入れて、観察することを楽しんでいた。自分の見つけた虫に親しみをもって毎日様子を見たり、「あ、葉っぱに登ったよ!」「これは女の子のダンゴムシ、黄色い模様があるからね」と気付いたことや知っていることを教師や友達に話したりする姿も見られる。

一方で、日々たくさん虫を見付ける中で、様々な種類の虫を1つの小さな飼育ケースに入れている状況や、飼育ケースに砂や水を入れ過ぎたり、飼育ケースを放置したりして、中の虫が死んでしまう場面もあった。幼児は「死んじゃった」と気付いているものの、気持ちを向けたり原因を考えたりする姿はあまり見られなかった。

そこで、教師は、幼児が虫を大切に思っていて関わってほしいという願いから、虫を種類ごとに飼育できるよう、飼育ケースを分けた。そして、幼児と一緒に虫の住んでいる場所に目を向けたり、図鑑を見たりし、虫にとって住みやすい環境を考えていけるようにした。また、幼児が使っていたスコップや図鑑などを、園庭に持ち運びやすい場所に整理し、幼児が自分のしたいときに観察したり調べたりできるようにした。すると幼児は、一匹ずつの虫をよく観察するようになり、「このアリは大きいぞ、女王アリかもしれない」「このダンゴムシは背中に黄色い模様があるね、女の子だ」など、同じ虫でも模様や大きさが異なることに気付いて、友達同士言葉で伝え合う姿が見られるようになった。また、春の虫について幼児が調べられる図鑑も用意した。すると、幼児は自分の知らない虫の名前を調べたり、図鑑から知ったことをもとに、飼育ケースの中の環境を変えたりする姿も見られるようになった。また、教師は幼児が虫と関わる中で、気付いたことや発見したことに共感したり、虫が好む食べ物や好きな場所(住処)について考えながら飼育する姿を認めたりしたことで、虫に親しみを持ち、大切にしようとする姿が増えていった。

〈活動の様子〉



### 5. 振り返り

(振り返りによって得た教師の気づき)

・幼児がいろいろな虫を見付けることを楽しんでいる姿を捉え、虫を探す道具を見直したり、虫について知ることのできる図鑑や絵本を用意したり、虫を種類ごとに分けて飼育できるように環境を工夫したりすることで、幼児が一匹ずつの虫をよく観察したり、自分なりに調べたりする姿につながった。

・幼児が虫と触れ合う中で疑問に思ったことや気付いたことを、教師が受け止めて共感したり、一緒に調べたりすることで、幼児の虫への親しみや興味が深まっていった。そして、それぞれの虫についてよく知ったことで、幼児は虫を飼育する環境にも目を向け、大切に世話したり関わったりしようとする姿が見られるようになった。

<活動の内容> (活動のために準備した素材や道具などの環境構成、保育者との関わり)

学級の中で虫への関心が広がり、観察したり、調べたりして大切に飼おうとする様子から、園内の池で生まれたオタマジャクシを学級として飼うことにした。

オタマジャクシに興味をもって観察している幼児は、「今日もチューリップの葉っぱを食べているね」「そろそろ脚が生えてくるのかな？」などと親しみをもちながら、オタマジャクシの成長を楽しみにする姿が見られた。また、観察を重ねる中で「脚みたいなのが生えてきた」とオタマジャクシの変化や成長に気付き、幼児の発見や喜びに教師が共感することで友達に伝える姿が増えた。そこで、幼児の発見を学級のみんなに伝える機会をつくることにした。

よく観察をしている幼児の姿から、教師は折り紙でオタマジャクシを作る製作活動を取り入れた。また、作ったオタマジャクシを動かして遊べる環境(池に見立てたたたらい)を用意し、オタマジャクシへの親しみを深められるようにした。幼児は、オタマジャクシの目の色や口の位置など、特徴を表現しようとする姿や、オタマジャクシの成長の変化に合わせて、自分の作ったオタマジャクシにも脚に見立てたモールを付け足したりするなど、成長の様子を再現しようとする姿も見られた。

<活動の様子>



5. 振り返り

(振り返りによって得た教師の気づき)

・虫に関心が向き大切にしようとする幼児の姿から、オタマジャクシを飼育したことで、親しみの気持ちをもって見たり関わったりする姿や、継続して観察しながらオタマジャクシの成長に期待感をもつ姿につながった。

・幼児がオタマジャクシに親しみを感じている姿を捉え、オタマジャクシを作る製作活動を取り入れたことで、実物や図鑑をよく見て特徴を捉えようとしたり、オタマジャクシの成長に合わせて、作り足したりするなど、幼児が観察での気づきを自分なりに表現して遊ぶ姿にもつながった。

<活動の内容> (活動のために準備した素材や道具などの環境構成、保育者との関わり)

オタマジャクシを飼育した後も、夏野菜を育てるための土作りや苗植えの中で、カブトムシの幼虫を見付けたり、ミカンの木に蝶々の卵を見付けたりし、園庭で見付けた虫を学級で飼育してきた。幼児が虫に名前を付けて、親しみをもって世話をする姿も見られるようになった。

夏休みの間も幼児が様々な虫を見付けたり、捕まえたりしたことを想定し、好きな遊びの製作コーナーに虫が作れるような様々な素材を用意し、幼児が作りたい虫に合う素材を選びながらそれぞれに表現して遊べるようにした。虫作りを楽しむ幼児に、教師は「体はどんな形かな?」「羽はどんな感じかな?」と声を掛けたり、図鑑や絵本を一緒に見ながら作ったりすることで、せみの羽の模様や虫の手足など、本物らしく作ろうとする姿が見られた。また「(飼育していた)カブトムシはこんな色だった、こんな角をしていた」と飼育していたカブトムシを思い出しながら製作する姿も見られた。

<活動の様子>



5. 振り返り

(振り返りによって得た教師の気づき)

- ・幼児が虫の世話をしたり、図鑑や絵本から虫について知ったりしてきたことで、より虫に親しみをもつようになり虫への興味関心も続いた。飼育する中で、虫の成長を喜んだり、よく観察したりしたことが、虫の特徴を捉え本物らしく作る姿にもつながった。

以上